マサチューセッツ大学アマースト校の研究担当理事一行が本学を来訪

10月1日（火）、2日（水）に、本学の戦略的国際研究パートナーである米国マサチューセッツ大学アマースト校のローラ・バンデンバーグ研究・外部連携担当理事、マイケル・フォックス自然科学研究院長、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長が本学を来訪しました。同校はマサチューセッツ大学の5校の旗艦校に当たり、札幌農学校の初代教頭であるウィリアム・スミス・クラーク博士が第三代学長を務めたマサチューセッツ農科大学に端を発します。クラーク博士が北海道に滞在した期間は1年にも満たないものですが、その影響は今なお大きく、同校にとっても印象深い土地となっています。特に自然科学研究院は、農科大学時代からの母体であるストックブリッジ農学校を傘下に収めており、フォックス研究院長からはこの訪問に対する想いが明かされました。

平成27年以降の国際連携研究教育局（GI-CoRE）の食資源、ビックデータ・サイバーセキュリティ分野での教員のクロスアポイントメント、先端生命科学研究院の龔　剣萍教授と先方高分子工学科のアルフレッド・クロスビー学科長のグループにおける若手研究者交流と、近年の人事交流を踏まえ、令和5年の寳金清博総長一行のアマースト校訪問を経て、両校は戦略的国際研究パートナーとして全学的に持続可能な研究連携を強化することで合意しました。令和6年1月には、「高分子工学におけるバーチャルシンポジウム」を合同開催するに至りました。また、同じく戦略的国際研究パートナーである豪州メルボルン大学と同様に、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」における本学の海外連携機関になっています。

寳金総長、瀬戸口剛理事・副学長（研究担当）、髙橋　彩理事・副学長（国際担当）に迎えられた来訪者一行は、既存連携先の農学研究院、北方生物圏フィールド科学センター、先端生命科学研究院、情報科学研究院、工学研究院を訪問しました。北方生物圏フィールド科学センターでは、星野洋一郎教授から両校の果樹園農産物連携が提案されました。更なる連携可能性の拡大のため、獣医学研究院、動物医療センター、人獣共通感染症国際共同研究所、ワクチン研究開発拠点、エネルギー・マテリアル融合領域研究センター、スラブ・ユーラシア研究センター、現代日本学プログラムの代表教員たちとも面会し、施設を視察しました。また、横田　篤理事・副学長（サステナビリティ担当）と植村妙菜学術主任専門職の案内の下、札幌農学校第二農場、総合博物館、大学文書館等、クラーク博士やウィリアム・ペン・ブルックス博士の時代を偲ぶ資料を見学しました。総合博物館では首藤光太郎助教からクラーク博士が収集した地衣類の標本について説明があり、今なお残る148年前の植物標本が今日の研究に繋がるという事実に感銘を受けていました。

訪問の締めくくりには、寳金総長から「令和8年に迎える北海道大学150周年記念には、是非再度の来札を」との提案があり、バンデンバーグ理事より「その頃までに更に研究連携の拡大を」との期待が示されました。2年後の札幌での再会が待たれます。

（国際連携推進本部）

クラーク博士の植物標本を楽しむ来訪者一行

ストックブリッジ農学校を束ねる
自然科学研究院長とクラーク博士の肖像

執行部、連携部局長たちと来訪者一行

マサチューセッツ大学アマースト校一行を迎える寳金総長